

中長期目標 (学校ビジョン)	価値観が多様化する時代を生き抜く力と豊かな人間性を育成する。 ・多様な生徒に応じた教育課程・クラス編成等により、学力の向上と進路目標を実現する。 ・切磋琢磨し、自己の多様な能力・適性を発見して才能の開花を図る。 ・地域に信頼され、地域の期待に応え、地域を支える学校づくりをすすめる。	今年度の 重点目標	「BIG」に育て境高生 1 部活動による人間力の伸長 【B】 2 生きる力（探究力）の育成 【I】 3 学力の向上と進路実現 【G】 4 学校業務改善の取組を進め、学習指導をはじめとする生徒に対する指導の充実を図る。

年 度 当 初					評 価 結 果(1月)	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価
1 部活動による人間力の伸長	○「部活動に入ってしっかり頑張った」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○全国大会出場者が80名、入賞者が5名を超えること。 ○中国大会出場者が200名を超えること。	○1月生徒アンケート結果「部活動に入ってしっかり頑張った」で「あてはまる」と回答する生徒が70.6%（「だいたいあてはまる」を合わせると87.1%） ○部活動加入率は85%を超え、生徒は積極的に活動に取り組んだ。 ○全国大会出場者60名（入賞者0名）、中国大会出場者数137名（近畿大会含む）	○文武両道の活力があり地域の誇りとなる普通科高校として存在 ○県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、学校内外に活力ある境高を発信	○学年ごとの目標学習時間（1年2時間以上、2年3時間以上、3年4時間以上）をもっと周知、呼びかけする。 ○学習と部活動の両立について、顧問から積極的に指導をする。	○全国大会出場者55名（入賞者2名）、中国大会出場者数183名（近畿大会含む）【2月末現在】 ○部活動加入率は80%を超え、生徒は積極的に活動に取り組んだ。 ○学習と部活動の両立は、困難を感じるが、根気強く指導を続けていく。 ●アンケート「部活動に入ってしっかり頑張った」肯定的回答83.3%	A
	○ボランティア活動や地域の活動に参加する生徒の数が200名を超えること。	○ボランティア参加者は延べ169名。 ○計5回のスクールプロジェクトを通じて地域の小学生と学習やスポーツ・芸術の交流を行うことができた。	○地域のボランティア活動への積極的な参加 ○部活動において地域の人材の力を借りたり、生徒が小中学生に学習やスポーツを指導したりすることで地域の信頼を獲得	○ボランティア募集情報を生徒に伝え、積極的な参加につなげる。 ○生徒向けボランティア講座を開催する。	○ボランティア参加者は延べ116名であった。（トライアスロン・保育園・高齢者施設など） また、ボランティアの経験を進学試験で生かしている生徒もいる。 ○スクールプロジェクトを通じて地域の小学生と学習やスポーツの交流を行うことができた。	
2 生きる力（探究力）の育成	○「自分や他人を大切にすることができた」と回答する生徒の割合が9割を超えること。 ○「生徒は自分や他人を大切にすることができるようになった」と回答する教員の割合が9割を超えること。	○アンケート「自分や他人を大切にできる」の回答「あてはまる」71.8%「だいたいあてはまる」26.7% ○QUを用いて生徒の抱える問題の早期発見に努め、学級の実態を把握した。日頃の相談活動から得た内容や気になる生徒の情報を教職員間で共有している。また、学期1回の生徒情報交換会を行うことで組織的な対応に繋げて問題解決にあたった。 ○1年次生対象の自己理解他者理解の講演会を12月に実施した。 ○命の教育講演会を1、2年次生対象に1月に実施した。	○生徒一人ひとりの状況を全教職員が把握できているという人権尊重意識の高い職場 ○人権教育全体計画に基づいた規範意識・人権意識の高揚	○多くの生徒が自分や他を大切にできるという問いにポジティブな回答であるが、クラスや部活動内など個別の対応をきめ細かく行う必要がある。 ○分掌間の連携により生徒情報を共有し、問題事案に対して組織的に対応する。 ○今後も生徒の行動、発言、様子を見守り、状況に応じた適切な指導を行う。	○QUを用いて生徒の抱える問題の早期発見に努め、学級の実態を把握し相談活動から得た生徒の情報を教職員間で共有している。また、学期1回の生徒情報交換会を行うことで組織的な対応に繋げて問題解決にあたった。 ○生徒間のトラブルについては、関係する分掌間で生徒情報を共有し、問題事案に対して組織的に対応した。 ○他者を想像し、気遣いや思いやりを持てるよう、妊婦体験、社会人講師による手話の学習、高齢者疑似体験等様々な体験の機会を設けた。 ○ソーシャルスキルトレーニングを人権学習に取り入れた。（1年） ○元気に学校生活に取り組んでいる生徒が多いが、友人関係や人間関係で悩む生徒が増加している。 ●アンケート「自分や他人を大切にしている」肯定的回答98.0%	B
	○「挨拶・服装等けじめのある学校生活ができた」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○ゴミの分別・減量化について、平成25年度との比較で継続して減量を実現すること。	○「挨拶・服装等けじめのある学校生活ができた」は「あてはまる」72.1%「だいたいあてはまる」26.7%。 ○「校内外の清掃に勤しみ、ごみの分別等もしっかりできた」の回答「あてはまる」51.8%「だいたいあてはまる」38.2% ○環境委員を通じて、ゴミの分別の徹底・減量化などの活動を継続して行っている。 ○挨拶の習慣が定着している生徒が多い。 ○服装・頭髪の規則に関しては概ね守れているが、スカート丈の短い女子生徒やネクタイ未着用が目立った。 ○SNSのトラブルはほとんどなかったが、校内でのスマートフォン使用違反が25件あった。	○挨拶の励行、服装・清掃指導等の徹底 ○生徒が主体となって取り組む学校環境の整備	○生徒会執行部や部活動が中心となり、活発な挨拶ができるよう働きかける。 ○挨拶の励行、服装、清掃活動は、細かいところにも目を配り、継続して指導する。 ○スマートフォンの使用については校内での使用ルールを徹底する。	○延べ83人の生徒が生徒会執行部に入部して、精力的に活動している。 ○挨拶の習慣が定着している生徒が多いが、挨拶の声が小さい生徒が増えたように感じられる。 ○服装・頭髪の規則に関しては概ね守れており、指導にも殆どの生徒が応じている。ただ、年間を通して女子生徒の短いスカート丈やネクタイ未着用が目立った。 ○SNSのトラブルは殆どなかったが、校内でのスマートフォン使用違反が54件あり、昨年度より倍増した。 ●アンケート「挨拶・服装等けじめのある学校生活ができた」肯定的回答97.7% ●アンケート「校内の清掃に勤しみ、ゴミの分別等もしっかりできた」肯定的回答90.8%	
3 学力の向上と進路実現	○「進路目標を定め、その実現に向けて家庭学習を進めた」と回答する生徒の割合が5割を超えること。 ○国公立大学現役進学者数が30名を超えること。	○「進路目標を定め、その実現に向けて学習を進めることができた」の回答。「あてはまる」37%「だいたいあてはまる」42.7%。 ○「探究学習等に主体的に取り組むことができた」「あてはまる」49.4%「だいたいあてはまる」41.5% ○国公立現役進学者数は24人。 ○1年次生は、地元でのSDGsの取り組みを学ぶ機会を作り、グループ活動を通して自分たちのSDGs目標達成に向けての取り組みを主体的に活動した。2年次生は、地域の方々と一緒に活動をする機会を持ち、グループで主体的に考えた地域をよりよくする提案を実行・評価し、発表した。	○生徒が3年間をとおして進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿の確立 ○キャリア教育全体計画に基づいた明確な進路目標を設定 ○「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を養うため、境考学を充実・発展	○安易に進路決定するのではなく、より高い目標を掲げて努力するよう指導する。 ○「境考学」などで主体的に活動したことを進路実現の一助にできるよう指導する。	○担任の個人面談や学期ごとの保護者懇談会等を通じて、また進路部との連携を通じて、生徒自身や保護者に進路意識を持ってもらうよう働きかけた。 ○放課後に自主的に居残り勉強をする生徒や、みなとテラスを利用する生徒が増加した。 ○学年集会では、現状に満足するのではなく、少しでも上の目標を持って努力するよう働きかけた。 ○「境考学」では1年次生は、SDGsセミナーを開催し、23団体46名の方からSDGsの取り組みを学ぶことができた。2年次生は、フィールドワークを実施し、地域に出かけてイベントに参加をしたり、地域の方と一緒に活動をする機会を持つことができているグループもあった。 ○2年次の「境考学」を契機に、主体的な活動を3年次に行い、進路実現に繋がった生徒もいた。 ○1月に「境考学」成果発表会を開催し、40名の地域の方が参観され、関心も高く、認知されてきたと思う。課題設定・探究内容の深まり、根拠の精度や表現方法は、まだ不十分である。 ○探究活動の継続や時間数の確保が難しい面があった。 ●アンケート「進路目標を定め、その実現に向けて学習を進めることができた」肯定的回答83.3% ●アンケート「探究学習等に主体的に取り組むことができた」肯定的回答90.5%	B
	○「授業の内容に興味をわき、理解が深まった」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○タブレット端末等のICTを活用した生徒主体の授業を8割以上の教員が実践すること。	○「授業に前向きに取り組み、理解を深めることができた」の回答。「あてはまる」46.8%「だいたいあてはまる」47.3% ○1人1台端末の公開授業を行ったが参加教員は少なかった。 ○探究掲示板の作成により、生徒に地域の活動を知らせ、自ら活動するきっかけ作りを与えることができた。	○1人1台端末を用いた授業研究会並びに授業参観週間での各教科代表による公開授業の定着	○授業を中心とした学習指導を継続していく。 自学の習慣を身につけさせ、家庭学習を定着させる。また、テスト前にも集中して取り組むよう指導を続ける。自習室の開放を行う。 ○境考学では生徒に対する一層の教職員からの声かけや指導を行っていく。	○基礎学力が不足している生徒が目立つ。落ち着いた授業に取り組む雰囲気確立することと、家庭学習の定着が必要である。 ○教科書付属の動画、スタディサプリ等を用いて、生徒個々の活動ができ、理解を深めることができた。 ○冬休みの課題をクロームブックを使い提出させた。予想以上に使いこなせる生徒もあったが、授業での利用は限定的であった。 ○多数の端末でのインターネット利用が不可能な現状では学校全体でタブレット端末を常用した授業を行うのは難しい。 ○「話してみよう韓国語」で全国大会への出場を果たした。 ●アンケート「授業に前向きに取り組み、理解を深めることができた」肯定的回答92.8%	
4 学校業務改善の取組	○行事や委員会等を抜本的に見直す。 ○長時間勤務者の解消	○月における時間外業務80時間超勤務者は0名であったが、45時間超80時間以下勤務者は延べ21名であった。 ○運営委員会の回数は減ったが、業務削減はまだ不十分である。 ○3年次生の面接指導・小論指導は全教員で分担して取り組めたが、指導期間中に他の複数の行事と重なり、教員の負担は非常に大きかった。	○時間外業務の上限が、月45時間、年360時間を超えないよう遵守 ○休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底	○早めに管理職から面談等を実施し、時間外勤務時間の削減を図る。 ○運営委員会等の設定時間、開催回数の見直しが必要。 ○人権LHRと境考学等で担任の負担が大きいのので割り振りや根本など見直しが必要。	○担任と副担任を中心に連携したクラス経営ができている。学年全体で円滑な協力関係ができている。 ○欠席連絡にグループフォームを取り入れ、保護者の負担、電話対応の負担は軽減した。学事への欠席登録方法については今後改善の余地がある。 ○採点に百問雑乱を取り入れる教科が増加し、週明けテストにも活用している。一方で導入時に比べ起動や動作に時間がかかることが増えているので、早急に対処する必要がある。 ○学事システムの活用で業務軽減にはなっているが、日々入力登録においてミスが起きやすい。 ○推薦・総合型選抜対策の個別指導が、2学期の教員の負担を増やしている。 ●職員アンケート「業務を効率化し、時間外業務の削減に取り組めた」肯定的回答71.4%	B

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】